



古賀ちかげ 支援拡大を

「子ども、くらし、平和」を守るために 参院選での

熊本教育新聞

来夏の参議院選挙比例区に熊教組が推薦決定している古賀ちかげさんが11月3日から5日に来熊し、3日は県教研全体会・分科会での挨拶、上益城退教協での「古賀ちかげと語る会」(以下「語る会」)、宇城教育学部同級生との懇談、退教協員への挨拶、熊大

4日は菊池退教協での「語る会」、岩田県議知人への挨拶、県教組・高教組合同の「語る会」、5日は城北退教協、県退教協及び熊本市退教協での「語る会」に加え教育団体等への表敬訪問と、ハードなスケジュールを精力的にこなし、支援拡大を訴えた。

4日に水前寺共済会館で開催した県教組・高教組合同の「古賀ちかげと語る会」には60名を超える参加者があり、進行、挨拶等をすべて女性が担い、熊教組の竹田妙子副委員長が主催者挨拶を行った。

古賀さんは「今の学校は点数学力等に縛られ、子ども教職員も疲弊している。

働き方改革や定数改善、少人数学級を進め笑顔のある学校を作ることが目標。長年の講師としての非正規雇用の経験から社会保障の充実の必要性を痛感している。

今回の衆議院選挙でさらに女性議員が少なくなることは最大の人権侵害だ。」と決意を力強く述べた。

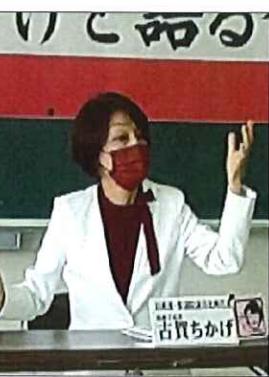
その後3名の女性参加者から職場の実態を交えての意見発表があり、古賀さんからは的確な回答があった。10月31日に投開票が行われた衆議院選挙の結果は、自・公での絶対安定多数、



西田ゆみさん 再選を果たす

山都町議会議員選挙 10月24日投票

10月24日に投開票が行われた山都町議会議員選挙の結果、熊教組が推薦した西田ゆみこさんは545票、7位で再選を果たした。定数16に対して18人が立候補する少數激戦であつたが、西田さんは議会だよりを議会ごとに配布するなど4年間の真面目な活動が評価された。2期目のさらなる活躍が期待される。



古賀さんはキヤッチフレーズで、教育現場経験者ならではの「子ども、くらし、平和」を掲げている。我々の先頭に立つてこの三つを守ろうとする古賀さんを何としても参議院に送らなければならぬ。

あとは我々がどう支援の輪を広げていくかである。衆議院選挙のリベンジを参議院選挙でしよう。



年末確定交渉始まる

10月25日県公労（熊教組、高教組、県職労など構成）は蒲島知事に労働条件改善の要求書を提出した。蒲島知事は「改善のためで検討していきたい」と発言し、今後の交渉は全権を白石総務部長に委任することとした。主要な要求事項は以下の通り。

- ①賃金手当の改善
- ②業務に応じた人員の確保
- ③長時間労働の是正
- ④育児休業等の改善
- ⑤休暇制度の改善
- ⑥定年年齢の引き上げ
- ⑦臨時の任用職員の待遇改善
- ⑧労働安全衛生推進



青木議長と蒲島知事

討していただき、次回交渉では前進ある回答を求める」と発言し、約3時間で1回目の交渉を終えた。今後は事務折衝を重ねて、前進ある回答を求めていく。

なお、任命権者である県教委に対しては熊教組、高教組の連名で

10月28日に古閑県教育長に対し要求書を提出している。交渉日は1回目が11月17日、2回目が11月30日に行う予定である。交渉の内容や結果については速報で知らせていく。

これを受けて、第1回の総務部長交渉を11月4日に行つた。熊教組からも23名が忙しい現場から交渉要員として駆けつけた。しかしながら1次回答はゼロ回答であり、交渉参加者が多く出された。青木議長（高教組）は、「現

オンラインでつなぎ、専門部役員は各自オンラインで参加した。総勢71名の集会となつた。はじめに杉田委員長、岩田県議があいさつしその後問題提起が行われた。

まず、上杉書記長から働きやすい職場づくりアンケートの結果が報告された。在校等時間の記録では42%もの人が正しく記録していない実態が報告された。次に、人吉球磨支部から在校等時間の改ざん報告問題へのとりくみが報告された。さらに青年部からは部活動の負担と子育てと仕事を両立の課題が提起された。最後に養護部からはコロナ禍において学校でクラススターが発生した事案について



オンライン集会の様子

オンラインとはいえども組合員が集まって意見を聞き、考えることができる貴重な時間となつた。

オンラインとはいえども組合員が集まって意見を聞き、考えることができる貴重な時間となつた。

その後、支部・専門部ごとに分かれ提起された内容について論議された。その内容については県執行委員会で報告され交渉に活かされていく。

オンラインによる働き方改革オ nline集会開催

10月30日熊教組はオンラインによる働き方改革集会を開催した。

本部と各支部の会場を

11月3日

県教研 教育会館ホールに集い大盛況

分科会で 全国教研レポーター三名を選出



県教研 全体講演の様子

本年度の県教育研究集会が、11月3日県教育会館で開催された。感染防止対策として、10時からの全体会と講演は高教組とは会場を別にオンライン開催とし、講師の末富芳さんもオンラインで参加された。「子どもの貧困対策と子どもの権利・ウェルビーイング(幸福)を考える」という演題での末富さんの話は、豊富な資料を使い、とてもわかりやすく、会場からの質問にも的確に答えられ、今後の展望を示唆するもので大好評だった。

(すえとみかおり 日大教授)
午後からの8つの分科会は、各分科会は、これまでコロナ禍でなかなか集まることができなかったので、久々の顔を合わせての集まりに、どこもとても活気があり、充実していました。分科会から、次の三名が一月開催の全国教研のレポーターに選出された。

午後からの8つの分科会は、各分科会は、これまでコロナ禍でなかなか集まることができなかったので、久々の顔を合わせての集まりに、どこもとても活気があり、充実していました。分科会から、次の三名が一月開催の全国教研のレポーターに選出された。

午後からの8つの分科会は、各分科会は、これまでコロナ禍でなかなか集まることができなかったので、久々の顔を合わせての集まりに、どこもとても活気があり、充実していました。分科会から、次の三名が一月開催の全国教研のレポーターに選出された。

第67回 母と女性教職員の会 要請行動
保護者とともに 県教育委員会へ要請

親と子と教職員の
教育相談室より

相談員 河崎醇一
不登校過去最多

10月19日に保護者3名、組合員6名で母と女性教職員の会要請行動に参加した。教育委員会は、特別支援教育課、学校人事課、高校教育課、学校安全安心課、体育保健課、義務教育課から参加があった。

「豪雨災害対応、復興支援のためのSC、SSWの派遣は」、「これからも継続していく。」「外国ルーツの子どもたちへの支援は、皆さんと認識を同じくしている。」との回答があつたが、他の項目については満足のいく回答は得られなかつた。

特に県立高校の定員内不合格者の解消については、「どうして熊本では実現できないのか。」「法律の解釈の仕方で実現できている県と実現できない県があるのは不公平だ。」と迫つたが、「学校教育法施行規則第90条、高校の入学は校長が許可をする」という文言がある。高校は単位習得によって決まり、その能力・適正があるかは、校長が判断する。」と回答された。最後に、「入学者選抜要項に『必要に応じて個別に対応する』旨の具体的例を明示してほしい」と要望し、「来年度に向けて検討する。」との回答を得た。

全ての子どもが格差なく豊かに学ぶことができ、平和で安全な社会の実現のため、今後も母女の要請行動を続けていかなければならぬと思つた。

(女性部長 吉柳きよみ)



教育委員会各課より参加

あいさつする吉柳女性部長

熊本県内では小学校889人(前年度比18人増)中学校2千10人(前年度比194人増)不登校を子どものSOSと捉えるなら、学校生生活は子どもにどうて、ますます暮らしにくくなっていると言ふだらう。



県教研 分科会

100人を越す大盛況 未組織も14人参加

参加者の声(アノケートより)

一つ一つの教具が目からウロで驚きの連続。それぞれ「うんちく(意味)」があり深いなあと感心しました。



環境・公害と食教育

- 「ミナマタ」で何を学ばせるのかを、今一度自分に問いつたが、しつかり学ばれていることに感動した。
- 梅田さんから「水俣から何を学ぶのか」と深いところで示唆を貰ってもらつた。
- 参加者の質問や意見、感想からも多くを学ぶことができた。
- 参加して本当に良かった少しずつ自分なりの考えが深まっていくと思つた。



理科・数学 算数教育

- 理科では、子どもから質問に答える」と、実際の体験の大切さを改めて感じ、アナログの良さを感じた。
- すぐに実践できる教材、授業の流し方等教えてもらい、楽しく授業できるのが、やはり一番だと思った。



インクルーシフ教育

- 若い報告者ながら、子どもの生活にしつかり根ざしていて、子どもや親の願いに寄り添つたすばらしい実践だった。
- インクルーシフという理想と特別支援教育という制度のかみ合わない歪を感じる日々です。
- 高教組の参加も多く、現状を聞くことができた。



美術・図工教育

- 大事なことがちりばめられた分科会だった。上手下手でにとらわれず自分の心に向かえる教材だった。
- すぐ楽しい時間でした。自分の心を映し出す芸術はすごいと思った。



人権教育

- 絵を描く」とに苦手意識があり、それが子どもに伝わっていたと感じた。
- 大事なことがちりばめられた分科会だった。上手下手でにとらわれず自分の心に向かえる教材だった。
- すぐ楽しい時間でした。自分の心を映し出す芸術はすごいと思った。



保健教育

- リモートで戸惑った点もあったが、参加しやすかつた人もいると思う。
- 資料をもらつた時からとても楽しみに待つていた。先生方の実践をもうと聞きたいと思つた。
- 来年の研修は「うしようとか、あすからまた頑張ろう」と思えた。



家庭科教育

- 自らの生き方を伝え、子ども同士の交流から深めていき、「愛情」もつた授業に感動した。
- 子供たちと一緒に学んでいた。」「うんちく(意味)」があり深いなあと感心しました。



学校事務・教育条件整備

- 働き方にについて、改めて考え
- るきっかけをもつた。緊急事態でも慌てず、学校の職員として仕事ができるよう
- に日頃から考えておく必要があると思った。
- 学校にて「その事務職員だが、働き方にも様々あるのだ」と思つた。